

第3学年 体育科学習指導案

日時 令和6年12月19日(木)

第1校時 8:50~9:35

対象 第3学年1組31名

授業者 田端 友美子

会場 体育館

1 単元名 器械運動(跳び箱運動)

2 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
切り返し系や回転系の技の行い方を知るとともに、其の技を身に付けることができる。	自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫することができる。	きまりを守り誰とでも仲良く運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができる。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①跳び箱運動の行い方について、言ったり書いたりしている。 ②自己の能力に適した切り返し系や回転系の基本的な技をすることができる。	①自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための活動を選んでいる。 ②課題の解決のために考えたことを友達に伝えている。	①跳び箱運動に進んで取り組もうとしている。 ②きまりを守り、だれとでも仲よく励まし合おうとしている。 ③器械・器具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 ④場の危険物を取り除いたり、器械・器具の安全を確かめたりするとともに、試技の開始前の安全を確かめている。

4 指導観

(1) 運動の特性について

中学年の「跳び箱運動」では低学年の「器械・器具を使つての運動遊び」の学習を踏まえ、器械運動の楽しさや喜びに触れ、基本的な動きや技を身に付けることを目的としている。基本的な切り返し系や回転系の技に取り組み、それぞれについて自己の能力に適した技ができるようにする。指導に際しては、すべての児童が運動の楽しさや喜びに触れることができるように、技に関連した易しい運動遊びを取り入れたり、易しい場や条件のもとで段階的に取り組めるようにしたりする。また、基本的な技に十分に取り組んだ上で、それらの発展技(大きな開脚跳び・大きな台上前転)にも取り組むことができるように配慮する。

(2) 児童観

普段の授業や、休み時間の様子から、体を動かすことが楽しいと感じている児童が多く見られる。また、体育の授業を通して、友達と関わりながら運動することの楽しさを感じ始めてきている。その一方で、運動に対し苦手意識をもっている児童も見受けられ、その多くは、運動の行い方が分からなかったり、運動に対して恐怖心を抱いたりしていることが多い。さらに、暑さによる運動制限などから、学校生活の中で体を動かす時間も減少しており、体力に衰えを感じ、体を動かしたくないと消極的になっている児童も少なくない。今回の授業を通して、「できた」「もっとやってみたい」と進んで運動を行うだけでなく、「楽しかった」「体を動かすのは気持ちがいい」と運動に対して前向きな気持ちをもつことができるように指導していく。

(3) 教材観

一人一人の児童が自己の能力に適した技に取り組んだり、その技がある程度できるようにしたりするとともに、同じ技を繰り返したり、技を組み合わせたり、安定した着地で跳び越したりできるようにすることが課題となる。また、跳び箱運動はそれぞれの運動に集団で取り組み、一人一人ができる技を組み合わせ、調子を合わせて演技する活動を取り入れることもできる。跳び箱運動は「できる」「できない」がはっきりした運動であることから、すべての児童が技を身に付ける喜びを味わうことができるように、自己の課題に合った場や活動を選ぶことができるようにすることが大切である。さらに、仲間と互いに励まし合い、助け合って学習を進めていくように指導をすることも大切である。

5 年間指導計画における位置付け (B 器械運動 全22時間)

第3学年 跳び箱運動 6時間

6 単元の指導計画と評価計画（全6時間）

時間	1時	2時	3時	4時	5時（本時）	6時	
過程	【つかむ】学習の進め方を知り、取り組む技のポイントをつかむ。			【挑戦する】自分の課題となる技について、できばえを高める。			
ねらい	跳び箱運動の学習の進め方を知る。	開脚跳びのポイントを知り、自分の課題に合った場で活動に取り組むことができるようにする。	台上前転のポイントを知り、自分の課題に合った場で活動に取り組むことができるようにする。	切り返し系・回転系それぞれについて自分の課題の解決のための活動を工夫して活動に取り組むことができるようにする。	学習のまとめをする。		
学習活動	【オリエンテーション】 1. 集合、整列、あいさつ 2. 単元の学習の見通しをもつ 3. めあてを確認する 4. 準備運動をする 5. 主運動につながる感覚づくりの運動に取り組む 6. 場の準備をする 7. 今できる技を試す 8. 切り返し系・回転系の基本的な技の行い確認する	【開脚跳びに挑戦だ！】 1. 集合、あいさつ 2. めあてを確認する 3. 準備運動をする 4. 感覚づくりの運動に取り組む 5. 場の準備をする 6. 開脚跳びのコツを見付ける 7. 自分の課題に合った場で取り組む（個人で、ペアで）	【台上前転に挑戦だ！】 1. 集合、あいさつ 2. めあてを確認する 3. 準備運動をする 4. 感覚づくりの運動に取り組む 5. 場の準備をする 6. 開脚跳びのコツを見付ける 7. 自分の課題に合った場で取り組む（個人で、ペアで）	【〇〇に挑戦だ！！】 1. 集合、あいさつ 2. めあてを確認する 3. 準備運動をする 4. 感覚づくりの運動に取り組む 5. 場の準備をする 6. 自分の課題に合った場で取り組む（動画でそれぞれの動きを共有する） 7. グループで練習を行う。	【T1 グランプリをしよう！】 1. 集合、整列、あいさつ 2. めあてを確認する 3. 準備運動をする 4. 場の準備をする 5. 発表する技の練習をする 6. 単元を振り返り、学習のまとめをする 7. 整理運動 8. 場の片付け 9. 集合・あいさつ		
	○学習を振り返り、次時への見通しをもつ ○整理運動 ○場の片付け ○集合・整列・あいさつ						
評価 の重 点	知識・技能		①	①		②	①
	思考・判断・表現				①	②	①
	主体的に学習に取り組む態度	①③	④		②		

【参考資料】小学校体育（運動領域）指導の手引き 中学年 スポーツ庁

イラストで見る全単元・全時間の授業のすべて 小学校3年体育 東洋出版社

7 手立て

①個に応じた活動の場の設定

それぞれの実態に応じた活動の場を設定することで、基本的な技を重点的に練習し、「できた」「もっとできるようになりたい」という気持ちを高めていく。

○開脚跳びの場の設定の例

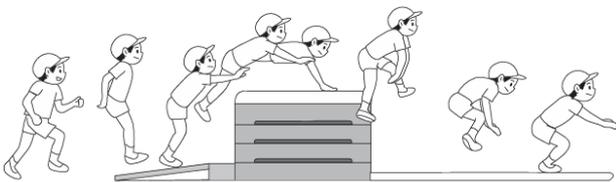
2段で開脚とび	3段で開脚とび
1→3段で開脚とび	4段で開脚とび
またぎこし	4段で開脚とび
とびのり・とびおり	5段で開脚とび

○台上前転の場の設定の例

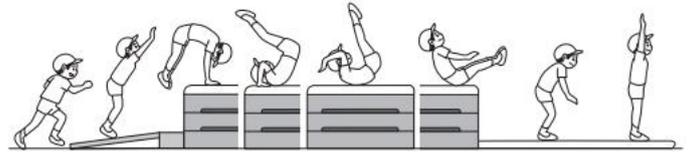
1→3段で台上前転	1→3段で台上前転
とび箱の上で前転	3段で台上前転
とび箱の上で前転	3段で台上前転
マットで前転	4段で台上前転

②学習カード

学習カードには、各技のポイントや、どのような練習すればよいかを掲載し、視覚的にも支援できるようにする。また、赤えんぴつで自分の意識したいところを囲ませることで、児童一人一人がどのような課題意識をもって学習に取り組んでいるのか分かるようにする。振り返り際には、技のポイントの中でできたところと次回への課題を記入させ、友達に伝える時間を設ける。



- 1 両足をそろえて、ボンと音が出るようにふみ切る。
- 2 前の方に手をつき、うでよりかたを前に出す。
- 3 手を強くつきはなし、前を見る。
- 4 手を前にのぼし、ふわビタと着地する。



- 1 両足をそろえて、ボンと音が出るように高くふみ切る
- 2 手前に手をつき、こしを高く上げる。
- 3 頭の後ろをつける。
- 4 あごを引き、せ中を丸めて、ゆっくり前転し、手を前にのぼして着地する。

目指せ！○○！
跳び箱にちょうせんだ！

名前 ()

① 月 日 ()	② 月 日 ()	③ 月 日 ()
【前半のめあて】 それぞれの技のポイントをつかもう。		
【今日のめあて】	【今日のめあて】	【今日のめあて】
めあてをたっせいできた。	めあてをたっせいできた。	めあてをたっせいできた。
進んでとりくむことができた。	進んでとりくむことができた。	進んでとりくむことができた。
きまりや安全に気をつけて運動することができた。	きまりや安全に気をつけて運動することができた。	きまりや安全に気をつけて運動することができた。
友達の良い動きを見つることができた。	友達の良い動きを見つることができた。	友達の良い動きを見つることができた。
自分に合った練習の場をえらび、練習することができた。	自分に合った練習の場をえらび、練習することができた。	自分に合った練習の場をえらび、練習することができた。
自分の課題を見つられた。	自分の課題を見つられた。	自分の課題を見つられた。
ふりかえり	ふりかえり	ふりかえり

【ふりかえり(れい)】
手をとび箱の裏の方につくことができた。壁がビッコとままれいないから、両足で着地できるように練習したい。 ※ が練習したところ！

【学習のふりかえり】
かんべき！(◎) ごうかく！(○) あと一歩！(△) まだまだ！(×)

④ 月 日 ()	⑤ 月 日 ()	⑥ 月 日 ()
【後半のめあて】 自分の課題を見つけて、技のできばえを高めよう。		
【今日のめあて】	【今日のめあて】	【今日のめあて】
めあてをたっせいできた。	めあてをたっせいできた。	めあてをたっせいできた。
進んでとりくむことができた。	進んでとりくむことができた。	進んでとりくむことができた。
きまりや安全に気をつけて運動することができた。	きまりや安全に気をつけて運動することができた。	きまりや安全に気をつけて運動することができた。
友達の良い動きを見つることができた。	友達の良い動きを見つることができた。	友達の良い動きを見つることができた。
自分に合った練習の場をえらび、練習することができた。	自分に合った練習の場をえらび、練習することができた。	自分に合った練習の場をえらび、練習することができた。
自分の課題を見つられた。	自分の課題を見つられた。	自分の課題を見つられた。
ふりかえり	ふりかえり	ふりかえり

8 本時の指導（全6時間中の第5時）

（1）本時の目標

自分の能力に合った課題をもち、技ができるようにするための運動の仕方を工夫することができる。

（2）本時の展開

時間	学習活動	指導・支援・留意点（○）、評価（☆）
はじめ	1. 集合、整列、あいさつをする。 2. めあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;">○○にちょうせんだ！！</div> 3. 準備運動をする。 4. 感覚作りの運動に取り組む。 5. 場の準備をする。	○健康状態と服装の確認を行う。 ○「○○」の中には事前に自分の挑戦したい技の名前や、できるようになりたいことを記入させておく。また、学習カードのイラストをもとに、どんなところを意識して練習したいのか考えながら取り組むように指導する。 ○首、手首、足首を丁寧にほぐす。 ○チームごとに安全に留意して準備をするように声掛けをする。
中 ①	6. 技のポイントを確認し、自分の課題に合った場で取り組む。 ・開脚とびコーナー ・台上前転コーナー ・マットコーナー に分かれ、技の練習に取り組む。 ※必要に応じてタブレット端末を利用する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;">どんなことができると、できばえをより高めることができるかな。</div>	○児童一人一人の課題を事前に把握し、課題に応じた練習の場を設定する。※技の種類は混ぜない。 ○開脚跳びに関しては、3回連続で着地が乱れなかったら、次の場に挑戦するように指導する。 ○台上前転に関しては、回転する際に頭の後ろをマットに着き、まっすぐ回転することができたら次の場に挑戦するように指導する。 ○同じ場に集まった児童でポイントを確認し、相互評価させる。 ○全体で集合し、技のポイントを再度確認する。その際にお手本となる児童がどんなところを意識したのかを考えさせるようにする。
中 ②	7. 自分が選んだ技の完成度を高める。 ・学習カードで自分の意識するポイントを確認する。	○どこを改善すると、課題を解決することができそうか、学習カードを見ながら確認する時間を設ける。 ☆自分の課題に合っためあてを決めて、工夫して練習している。

お わ り	8. 学習を振り返り、次時への見通しをもつ 9. 整理運動・場の片付け・集合・整列・あいさつをする。	○できるようになったところ、クラスの仲間のよかったところを学習カードにまとめる。 ○次時への見通しをもたせ、発表会への意欲付けをする。
-------------	-------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------

(3) 本時の評価

自分の能力に合った課題をもち、技ができるようにするための練習の仕方を工夫することができる。

【場の設定の例】※前時の様子により、場は変更します。

